第十二節　Faletehan に関して

ポルトガルの資料は Faletehan が Pasai の下層家庭の生れであると明確に述べている。Husein 教授は、Faletehan がイスラム法学者でありイスラムの導師であり Trenggana 王子は彼の門下生であり義理の兄弟であるという結論に至った。Sukanto 教授は、Pasai 港市がポルトガル人に奪われた後、Faletehan はポルトガル人を憎んで Pasai を去ったと語っている。

このポルトガルの史料を、Faletehan 別名 Sunan Gunung Jati という人物と比較するために、スマランと Talang 廟の史料と対照する必要がある。Sunda Kelapa の事件の 1526 年の年に関してこの史料で合致させることをここでいう前にである。

スマランの三保洞廟の中国語年代記はこのように述べている。「年を取っていても中国語が堪能だった Kin San は Sembung の華人ムスリムたちを征服するために西に向かう Damak の艦隊に同行した」。

Talang 廟の中国語年代記はこのように述べている。「軍隊をともなった Demak からの艦隊が Talang 港に停泊した。Kin San という中国語に堪能なイスラム教徒の混血華人が同行していた。Demak 軍の司令官 Syarif Hidayat Fatahillah は Talang から Kin San を伴って修行中の Sembung のイスラム法学者の Tan Eng Hoat を訪れた。Tan Eng Hoat と共に Demak 軍は平和裏に Sembung に入った。<228>Demak イスラム王の名において、Demak 軍司令官は Tang Eng Hoat / Sembung のイスラム法学者に称号を授けた。それは Mu La Na Fu Di Li Ha Na Fi であった。Demak 軍は船に戻り西に向かって出帆した。Kin San は一か月間 Tan Eng Hoat の客人となった」。

この Demak 軍司令官と思われるのは後日 Sunan Gunung jati と呼ばれる人であり、1552 年の日付がある Talang 廟の中国語年代記の記録があるからこれは確かである。その記録はこう述べている。

この Demak 軍司令官はその四半世紀後に Sembung を訪れた。軍隊は連れずに単身であった、Tan Eng Hoat は大変不思議がった。Demak 軍の元司令官が Banten の元イスラム王になっていたと聞いたからであった。彼は Demak の Jin Bun の子孫に対する造船所での大量殺戮の話を聞いて失望した。Pajang サルタン国では Syi'ha 派

のイスラムが強い影響力を持っていたため、彼は Pajang のサルタンに従いたくなかったのである。Demak 軍の元指令官は一生ずっと Sarindil で修行を続けることを希望すると申したのだった。

Tan Eng Hoat は Sembung の華人ムスリム社会は四世代にわたってイスラムの雲南と連絡がないと話した。それに反し、Sembung の華人たちは Cirebon 地域で極めて強力になった非イスラムの福建人の子孫になった。Tan Eng Hoat 自身、そのわずかな部分がイスラムに入信しただけの福建人の子孫であった。

Tan Eng Hoat は元 Demak 軍司令官に、Sembung の華人ムスリムたちに昔 Jin Bun が Demak でやったようなサルタン国を建国する指導を依頼した。Sembung の華人社会がイスラムとして存在していられるようにするために他の道がなかったからであった。Demak でのようにやむを得ず中国語とハナフィー派を手放すとしてでもである。年老いたとはいえ元 Demak 軍司令官はそれに賛同した。<229>

Sembung の華人ムスリム社会の協力を得て元 Demak 軍司令官は、現在 Kasepuhan となっている王宮にその中心を置いた Cirebon サルタン国を建国した。Sembung の住民は村ごとイスラムやインドネシアの名前を付けて Cirebon の新しい町に移住したのであった。Cirebon の初代サルタンは当然のこと元 Demak 軍司令官であった。かれは元 Sembung 住民からイスラム軍を編成した。非イスラム華人はやむを得ず新たに編成されたこの Cirebon 華人イスラム軍に従ったのであった。

1553 年に、すでに年老いてはいたが初代の Cirebon のサルタンは、Tag Eng Hoat 別名 Maulana Ifdil Hanafi の娘と結婚した、Sembung から Cirebon の王宮までこの華人の姫は三保大人当時の中国皇帝の結婚式のように盛大な儀式を以て出発し、Tan Sam Cai というまだ若い甥に護られていた。

太守 Wirasenjaya 王子を称した Tan Eng Hoat 別名 Maulana Ifdil Hanafi は Cirebon サルタン国の第二人者となり(1553-1564)、法律上ではインド洋まで支配することになっていたが、事実上は Kadipaten 近くに任じられていた。そこから彼は極めて大きな業績である東 Priangan の内部地域から Garut までの地域においてスンダ語でイスラムシャフィー派を発展させたのであった。

1564 年に Tan Eng Hoat がヒンドゥー教を奉じている Galuh 王国への遠征中に死去した。Tan Eng Hoat の遺体は Galuh のとある湖にある島に埋葬された。

Tumenggung Aria Dipa Wiracula の称号を持ち、Muhammad Syafi'i という名前をつつかうのを一度も好まなかった Tan Sam Cai は Cirebon サルタン国の財務大臣に就任した。Tan Sam Cai は背教者であった。彼は Talang 廟に詣でで線香を燃やすことに執着した。このようであっても Tan Sam Cai は財政的に Cirebon サルタン国を強力にしたという大きな業績があった。〈230〉

1570 年に初代の Cirebon のサルタンが死去し、華人女性から生まれたその息子が跡を継いだ。Cirebon のサルタンの二代目は大変若い青年であったので、Tan Sam Cai が史実上 Cirebon サルタン国を支配したことになる。この強力な Tan Sam Cai に対抗したのは Kung Sem Pak 別名 Muhammad Murjani で、サルタンの墓守となった Kung Wu Ping(公呉賓)提督の子孫であり Sembung に住んでいた。

スマランと Talang の三保洞廟の中国語の年代記は、Faletehan あるいは Sunan Gunung Jati が誰であるかを明確に物語っている。はっきりしているのは Faletehan あ別名 Sunan Gunung Jati が 1526 年に Trenggana サルタンによって Cirebon と Sunda Kelapa に派遣された時に軍司令官であったことである。彼はイスラム法学者では全くない。これらの三保洞廟の中国語年代記にはこの Demak 軍司令官の名前が述べられていないのが極めて残念である。簡単にするために、ポルトがガルの史料にあるように Faletehan とだけ呼ぶことにしよう。Demak での名前は Faletehan ではなかったように思われる。Husein 教授の説を利用できるとすると、この名は 1526 年の Sunda Kelapa 港の占領が成功したあとから使われたことになる。この名もポルトガルの発音に従ったものである。その名とは「神の援助」を意味し、神の援助で勝利を得た人を意味する Fatahillah である。

既にご存じのように、Demak のサルタン Jin Bun も彼がマジャパヒト王の Kertabhumi に勝利したあとで Al-Fatah 一般的な名前では Raden Patah と名乗った。本名は Jin Bun であった。王子として、かれは Jin Bun 王子あるいは Penembahan Jin Bun を名乗っていた。この Demak 軍司令官が Sunda Kelapa 港で Sunda 王と対戦しと Fransisco de Sa と対戦して勝利を得た後で Fatahillah の名を採用したことは十分に理解できる

のである。

Husein 教授が「勝利の章」の Al-Fath の発音を元に発見したように、言語学から調べると Fatahillah の名は Fathan の名より簡単な Faletehan になったのである。Sunda Kelapa で彼が勝利にたどり着く前の名前はいったい何であったのかという疑問が湧いてくるのである。

Demak 軍の司令官は勝利を得る前にも名前があったはずである。Faletehan あるいは Fatahillah という名は Demak での名前ではなく、姓名の下の名前でもない。Demak 軍の Sunda Kelapa への来訪は Demak のサルタンの命令であったことは既知である。Talang と Sunda Kelapa を奪った後で Demak のサルタンの使者として、この Demak 軍司令官は Demak へ艦隊を率いて帰還したのは当然のことである。彼は Demak のサルタンに報告をしなければならなかったからである。その時、スンダ人とマラッカのポルトガル人から Sunda Kelapa を奪還されないように Demak の艦隊の一一部が滞在し続けていたのであった。

1527 年に Trenggana のサルタンはマジャパヒトの都を占領するために軍隊を派遣した。Girindrawardhana は崩御した。Girindrawardhana の息子たちはイスラムに入信するのを好まず、いまだヒンドゥー教を奉じて Demak に降伏したことがない Pasuruan や Panarukan に逃げ込んだ。この Demak 軍の司令官は Trenggana のサルタンの息子で Toh A Bo という名の司令官に率いられていた。マジャパヒトへの軍の派遣と都での駐屯の理由は、以前関係を樹立しようとしたポルトガル人とマジャパヒト王の関係を阻止することであったことは明らかである。このようなことで、Tung Ka Lo 別名 Sultan Trenggana には二人の息子の Muk Ming (Sunan Prawata)と Toh A Bo (Pangeran Timur)がいたことが少なくともわかるのである。知っているように Muk Ming は 1546 年の Jipang 軍との戦いで没し、Toh A Boh は Babad Tanah Jawi の中で Madiun の太守になったと述べられている。勝利をもたらした 1526 年当時の Demak 軍司令官が 1527 年にマジャパヒトに派遣された軍司令官と同一人物だとすると、Cirebpn と Sunda Kelapa への Demak 艦隊を率いたのは Tung Ka Lo 自身の息子である Toh A Bo ということになる。このようにして Toh A Bo は歴史から消えてしまったのではない。Fatahillah というのは通称でその先祖は Jin Bun である。この結論は、Fatahillah が Pasai の下層家庭の出身であるとするポルトガルの史料から判明したことと全く逆であ

る。真実はその反対であった。Fatahillah は Demak の生まれで、Demak のサルタン自身の息子である上流貴族の出身であった。

Muk Ming は長男であったので、Demak のサルタンの後継者として期待されていた。実際に 1546 年に Trenggana サルタンの後継者になったのは確かである。弟の Toh A Bo は自分の地位を探さなくてはならなかった。その地位とは奪った西ジャワであった。Toh A Bo は、Banten と Sunda Kelapa をはじめとする西ジャワの沿岸港市を支配するために 1530 年頃(早くても 1528 年)に Banten のサルタンになった。

極めて注目を引くのは、1552 年に Tan Eng Hoat の要請で、Sembung の華人ムスリム社会を統率し、Jin Bun が Demak で華人ムスリムたちの支援を得てやったように、この Demak の元司令官が Sembung において Cirebon でのサルタン国を建国したことである。華人イスラム社会を統率することを頼まれた人は混血華人ではないかと思われるのである。Toh A Bo は Trenggana のサルタンの息子であるが故に混血華人であった。Trenggana のサルタンは Bong Swi Hoo 別名 Sunan Ngampel の娘と Jin Bun の孫であった。Cirebon ではサルタンとして彼も Tan Eng Hoat の娘である華人女性と結婚した。この比較を元にすると、Fatahillah あるいは Faletehan として知られている Demak 軍の元司令官は混血華人の Toh A bo であると言っても真実からそう遠くないと思われるのである。〈233〉

ムスリムたちの間で、Jin Bun はイスラム名 Raden Patah (Al-Fatah)という名で知られていた。華人社会でのみ彼は Jin Bun という名で知られていただけであった。これが Toh A Bo に関する件である。Banten と Cirebon のイスラム社会で、彼は Fatahillah というイスラム名のイスラムのサルタンとして知られていた。Fatahillah とはサルタンとしての公式名(王の戒名)であったと言える。同じことが Al-Fatah の名が Demak のサルタンとしての Jin Bun の公式名であった。

この説が正しいとすると、Toh A Bo が Fatahillah という名をマジャパヒトから戻ってきた後でバンテンのサルタンに即位するした時に使ったことになる。既に触れたように、Demak のサルタンへの即位は 1527 年に行われた[1]。ポルトガル人たちは

[1] Faletehan が Pasai から Banten に Demak の属国のサルタンとしていたのは 1520 年頃であったという Stutterheim の説は持ちこたえられなくなった。(De Islam en zijn komst den Archipel, p39)「列島へのイスラムの来訪」

Fatahillah の名(Faletehan になってしまう名)を彼がバンテンのサルタンになった後に知ったのだった。Banten のサルタンは Demak のサルタンの属国だったので、この任命は Trenggana のサルタンによって行われた。

華人がアラブやジャワの名前を使うことは歴史上において普通のことであった。マジャパヒト時代には Gan Eng Cu が Arya Teja、Swan Liong が Arya Damar、Demak 時代には Jin Bun が Al-Fatah、Kin San が Husein (Kusen)、Yat Sun が Adipati Yunus、Cirebon 時代には Tan Sam Cai が Muhammad Syafi'i で Tumenggung Arya Wiracula の称号を持ち、Tan Eng Hoat が Adipati Wirasejaya、Kun Sam Pak が Muhammad Muryano である。これらのアラブあるいはジャワ名はインドネシアの原住民の間で知られていたものである。

Fatahillah がいつ Banten のサルタンに任命されたかははっきりとしたことがいえない。はっきりしていることは、1552 年に彼は Banten を去り、Cirebon サルタン国を建国して Cirebon にいたことである。Banten のサルタン国は息子の Hasanuddin に任された。1546 年に Demak サルタン国は倒れた。支配は Jaka Tingkir 別名 Pajang の Sultan Adiwijaya に移った。<234>Fatahillah は Pajang のサルタンに服従することを嫌い、すでに衰退した Demak からも離れたのであった。宗教のみならず政治の関係でも、Fatahillah は Pajang のサルタンとそりが合わなかった。Pajang で広まったイスラムはシーア派であり、その支配者はもう Jin Bun の子孫でもなかった。Jin Bun の子孫は敗北した。Fatahillah は Sultan Trenggana が崩御したあと、Jin Bun の孫たちの間での継承権の争いを見て失望した。これこそが彼が Cirebon にやってきた原因であった。1526 年に無血で奪った Cirebon 港市を Fatahillah が防衛したかったことがその遠因であったと思われる。彼は Sultan Adiwijaya が支配地域を Cirebon まで拡大し、シーア派が支配し、Cirebon でその影響が出ることを見たくなかったのである。それ故、Tan Eng Hoat の提案と Sembung の華人ムスリムたちの支援で、彼は 1552 年に Cirebon サルタン国を建国する申し出を受け入れたのであった。新しい Cirebon サルタン国を指導したのは Fatahillah その人自身であった。政治的理由と宗教的理由はその強さが同じであった。

Sunda Kelapa という港の名前が Jayakarta になったことに関して、わかっていることは 1526 年に Demak 軍司令官 Toh A Bo によって Sunda Kelapa が奪取されたという

ことだけである。Sunda 王のみならず Fransisco de Sa も Demak 軍との対戦に敗れた。この Sunda Kelapa での二つの勝利が Demak 軍によって獲得された。この Demak 軍が獲得した二つの勝利に基づいて、Sunda Kelapa の名が Jayakarta になった。その意味は「勝利した」「勝利の町」「栄光の町」である。Sunda Kelapa は元スンダ・ヒンドゥー国の地域であったことを知っておく必要がある。ヒンドゥーの宗教と文化の生命ははスンダ国の住民にたちにしみ込んでいた。新しい地名はサンスクリット語が選ばれた。この習慣は中部ジャワでも生きていた。ジョクジャカルタ(Yogyakarta)とスラカルタ(Surakarta)は、ジョグジャカルタ、クルトスロ(Kertosuro)とスラカルタはまさにサンスクリット名ではあるが、これらの年はイスラムを信じるサルタンの治世下で建設されたものである。<235>ヒンドゥー文化の精神はヒンドゥー国からイスラム国に代わる時代の流れの中でも多くの大衆の生活と思考法に命を与えていたのであった。サンスクリット語の Jayakarta の名は Sunda Kelapa 港市の名に代わって使われているのである。

史料不足の影響で Sunda Kelapa が Jayakarta になった確定した日付は知ることができない。この名前の変更は、Husein Jayaningrat 教授がアドバイスしたように 1526 年末に Demak 軍が上記の港市を支配した直後に行われたものか、あるいは Sukanto 教授がアドバイスしたように収穫期を待って行われたものかは明確に言うことができないのである。この港の名前は Toh A Bo が Banten のサルタンになり、Fatahillah と名乗った時とぴたりと一致することは間違いない。港を奪った司令官の名前のみならず奪われた港の名の双方とも「勝利」を意味している。前者は勝利の獲得、後者はその司令官が勝利を獲得したことを示している。この二つの名前は互いに密接な関係にあり、実際には時を同じくした。この港の名前の変更は、Toh A Bo が Fatahillah と名乗った時、すなわちバンテンのサルタンとして即位した時に公表された可能性が高い。これこそが即位という出来事と関係する名前の変更を公表するのに最適な日であった。確かなのは、Toh A Bo は 1527 年にマジャパヒトの都で軍務についていたので彼の即位は 1526 年末に行われなかったことである。

この公表には国家の祝日以外の良い日はなく、それは Toh A Bo 別名 Fatahillah が率いる Banten サルタン国の建国記念日である。しかしながら、この Banten のサルタンがいつ即位したかは知りえないのである。わかっているのはこの即位が、Toh A Bo がマジャパヒト王国の都から帰還した後ということだけである。

実際に、Jayakarta の港の年齢を確定するために、Sunda Kelapa の名が Jayakarta に代わった日は必要ではない。この名前の変更はその前から存在していた港の年齢を損ねるものではない。Jayakarta の名は 1619 年にも Jan Pieters Zoon Coen によって Bavita と改められた。この名前の変更も Jayakarta 港の年齢を損ねるものではないのである。重要なのは Sunda Kelapa あるいは Jayakarta 港が歴史上で知られた始めたのはいつであるかを知ることである。Sunda Kelapa あるいは Jayakarta 港が歴史上で知られ始めたのは、スンダ王側とポルトガル人たちの側で要塞を建設する合意が形成された 1522 年 8 月 21 日なのであった。

現在に至るまで、Fatahillah は Banten と Cirebon のサルタンで Trenggana サルタンの娘婿として知られている。Talang の中国語年代記から Fatahillah が Banten と Cirebon のサルタンになる前は Demak 軍の司令官であったことが知られる。彼は Demak 出身で Pasai 出身ではない。このことは、西ジャワのイスラム化が Demak から行われたということを知るようになるから重要なのである。Jin Bun の統治時代と Tung Ka Lo の統治初期において、西ジャワはまだ仏教徒の Sunda Pajajaran 王に支配されていた。元 Demak 軍司令官が 1527 年以降、Banten のサルタンに即位した後 Banten とジャカルタ地域のイスラム化が始まったのである。元 Demak 軍司令官が 1552 年に Cirebon のサルタンになった後、Cirebon 付近の西ジャワ地域のイスラム化が Tan Eng Hoat 別名 Pangeran Adipati Wirasenjaya によって行われた。Tan Eng Hoat は東 Priangan と Garut の内陸部に移動した。1564 年に Tan Eng Hoat はヒンドゥー教を奉じる Galuh 王国を奪うために遠征を行った。しかしながらこれは失敗に終わった。Tan Eng Hoat は戦死した。彼の遺体は Galuh 地域の湖に囲まれた島の上に葬られた。〈237〉

Sultan Fatahillah は 1570 年に崩御した。彼の遺体は Cirebon 市の 3km 北に位置する Gunung Jati の丘の Sembung にある Cirebon サルタン国の支配者たちの墓地に葬られた。元 Demak 軍司令官 Fathillah 別名 Toh A Bo は後日 Sunan Gunung Jati の呼び名で知られるようになった。

第七章訳出終了 2015/9/18

校正　　2015/10/06, 2017/12/25

[引用元]

人物肖像: Wikipedia

マラッカ要塞図 ：

http://www.colonialvoyage.com/fort-malacca-portuguese-dutch-fortress-malacca-melaka/